

< 9 月定例会一般質問内容 2017.9.12 実施 >

○8/29 に発射された北朝鮮からのミサイル対応について

- ・ 盛岡市や教育委員会の対応
- ・ Jアラートの作動支障
- ・ 避難訓練実施の必要性
- ・ 初動避難方法の周知
- 「女性が輝く盛岡」について
 - ・ 保育士の確保策
 - ・ 農業分野での女性参画
 - ・ 先人教育における女性顕彰の現状
- 日本遺産申請について
 - ・ 現在の状況
 - ・ 今後の対応
- 地域課題について
 - ・ 高松の池の護岸整備



8/29 に発射された北朝鮮からのミサイル対応について

【質問要旨】

- ・ 日本国土を飛び越えるミサイル発射という暴挙とも言うべき行為に対する市長の所見を伺う。
- ・ 当日 Jアラートの内容が放送されなかった事態の詳細を示せ。
- ・ 今後、仮に授業中に Jアラートが鳴った場合の教育委員会としての方針は定めているのか。
- ・ ミサイル飛来を想定した住民避難訓練を検討すべきではないか。
- ・ 市民への具体的な周知活動は行っているのか。専門家によるセミナーの開催、広報紙や町内回覧などでの配布等、早急な対応が必要と考えるがどうか。他

【答弁内容】

(市長・総務部長)

今回のミサイル発射は、各国が北朝鮮の非核化に向けて対話を模索する中、通告なしに発射されたものであり、我が国の平和と安全を著しく脅かす断じて許すことのできない行為であると存じている。当市も加盟している平和首長会議においても、去る9月3日に、文書で厳重に抗議するとともに、核兵器と核計画を即刻放棄し国際社会との対話と協調による外交努力を誠実にを行うよう強く要請したところである。

Jアラートの内容が放送されなかった事態については、市のシステムを管理している業者側において、ネットワークの設定が誤っていたため、放送に使用するデータを取得できなかったことが原因とされている。今後はシステム管理業者による対応の確実な履行について、その都度確認を徹底するなど監視を強化し、再発防止に努めていく。

授業中にJアラートがなった場合の方針については、内閣官房から示されている「弾道ミサイル落下時の行動について」に準じて、校舎外で活動を行っている場合は、速やかに児童生徒を校舎内に誘導し、校舎内では、できるだけ窓から離れて、机の下に身を隠したり、頭部を保護したりさせるよう、各学校に対して文書を通じて指導したところである。

住民避難訓練については、今後実施に向けて検討していく。また、市民への具体的な周知活動については、市のホームページのトップ画面に掲載しているほか、消防団への説明や地域・団体への出前講座などの周知に加え、今後は広報もりおかへの掲載や町内会の回覧などにより、さらなる周知徹底を図っていく。

絵空事としていられなくなったミサイル災害についての対応策はまだまだ多くの課題があるように思いますが、危機意識を持って動いてみることにより、地域に則した自分達の身を守る策が見えてくるものだと思います。

盛岡市では、県と連携した大規模なミサイル対応の住民避難訓練を年内に行なう事が決定したようです。また、町内会単位の小規模な防災訓練にも随時対応していくとの事。日頃の訓練がいざという時に命を守るの言うまでもありません。ミサイル危機を新たな災害のひとつとして捉え、防災の延長線で安全保障の面から市民や子供達を守る方法を早急に構築すべきと考えます。



「女性が輝く盛岡」について

【質問要旨】

- ・女性の感性、視点を充分活かしながら、盛岡の女性が輝けるような取り組みをさらに進めるための施策はあるのか、伺う。
- ・市内の保育所で保育士不足を訴えている施設数と人数について伺う。
- ・潜在保育士の掘り起こしのための効果的な検討を行ない、保育士不足解消のスピードをあげてはどうか。
- ・女性の参画によって盛岡の農業の可能性を広げ、魅力を発信することで地域の活性化につなげることについての所見を伺う。
- ・盛岡市先人記念館の顕彰先人130人のうち、女性はわずか2人のみである。今後女性の顕彰先人を増やして行く予定はないのか。
- ・先人の母や妻の顕彰をもっと充実化させ、先人教育を通じて子供達に日本の伝統的な女性像に触れる機会を増やしてほしいがどうか。他

【答弁内容】 - (市長・教育長・子ども未来部長・農林部長)

当市において、女性の感性や視点を存分に活かしながら、多様化する市民ニーズや社会情勢の変化に対応し、魅力あふれるまちづくりを進めるため、盛岡市総合計画の施策の柱の一つとして「男女共同参画の推進」を掲げている。その実効性を確保するため、戦略プロジェクトにおいて、子育て応援プロジェクトを展開し、若い世代・子育て世代への支援や、ワークライフバランスの推進などへの予算を重点的に配分することにより、市民生活のあらゆる分野において、女性がより安心して活躍できる環境作りや機運の醸成を行っている。

市内の公立保育所・私立保育所、認定こども園、地域型保育事業所の全86施設のうち43%にあたる37施設で、保育士が59人不足していると回答があった。潜在保育士の掘り起こしのための独自の効果的な方策については、広く保育関係者と意見交換をしながら検討していく。

農業分野での女性活躍の可能性については、現在大ケ生地区において、地域の魅力発信に取り組む「地域おこし協力隊」へ女性を採用し、「農」を軸とした活動を行うことにより、農業分野での女性の能力を活かす場の実証事例などの創出に勤めている段階である。また、「食と農のバリューアップ推進事業」の戦略作りにおいて、女性講師の活用を図るほか、市の女性職員など、機械を捉え女性の意見を積極的に取り入れる場を設けていきたいと考えている。

先人記念館の女性の顕彰者が2人のみである現状については、現在先人記念館で顕彰している先人が活躍した時期は主に幕末から昭和20年頃までにかけてであり、女性の社会進出の機会が少ない時代であったことから、顕彰されている人数が少ないものと存じている。今後新たに顕彰する場合には、男性女性に関わらず、顕彰すべき先人としてふさわしい方が顕彰されるものと存じている。

各学校において、子供たちは、盛岡の先人の生い立ちを調べる活動を通じて、先人を育て偉業を支えた家族として、母親や妻の存在に触れながら学習している。教育委員会としては、今後

も女性を含め、盛岡にゆかりのある先人の生き方を学ぶことを通して、次代を担う子供たちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛着」、「目標に向かって努力する心」を育てていく。

盛岡市の男女共同参画推進計画の5つの基本目標の中に「女性に対する再就職の支援」という項目があります。育児や家事に専念することを理由に仕事をやめ、子育てが一段落して再就職をしたいという方を支援する内容です。こういった所に現在不足と叫ばれている保育士だけではなく介護士、看護師の資格をもった方の掘り起こしとマッチングを取り組みの内容に加えて、さらなる女性活躍の場を増やすように検討していただきたい。

日本遺産申請について

【質問要旨】

- ・ 昨年度、当市が他の4市町と共同申請したストーリー「蝦夷と征夷大將軍 坂上田村麻呂の世界～古代城柵の歴史空間～」が認定に至らなかった原因をどのように分析しているか。
- ・ 来年度の申請はどのようにする予定なのか。
- ・ 花巻市から「『BUSHIDO』の聖地 盛岡と花巻～世界に発信された盛岡藩士・新渡戸稲造のサムライスピリット～」

と題したストーリー展開で共同申請の打診があると聞く。当市にも効果があると考えられる他都市からの提案には、岩手県の日本遺産認定を増やすためにも協力し合うべきと考えるが、どうか。他

【答弁内容】 - (教育長・教育部長)

平成29年度に日本遺産の認定にならなかった原因については、特に文化庁から理由は示されていないが、関係市町での協議では、テーマと構成資産に問題はなかったものの、歴史を中心に説明したこと、構成資産の現在の情景の説明が足りなかったことなどが原因ではないかと分析している。

平成30年度の認定に向けた申請の予定については、前回と同様に矢巾町などの4市町と協議し、古代城柵という歴史的な空間の魅力をもっと一層表現できるよう、平成30年2月の申請に向けて取り組んでいく。

また、今後他都市からの提案があった場合は、内容を申請条件と照らしながら検討し、必要に応じて連携を図っていきたい。

文化庁では、オリンピックイヤーとなる平成32年までに、全国で100件の日本遺産認定を目指していて、残り枠はあと46件となっているのですが、残念ながら現在岩手県だけが認定地ゼロといった状況です。全国で日本遺産の認定を受けている自治体の中には、複数のストーリーで重複して認定を受けているところが岡山県の備前市など10ヶ所近くあります。人類の宝を次代に継承する世界遺産に対し、日本遺産は外国人観光客に日本の魅力をアピールすることや、地域活性化が狙いということもあり、仮に花巻市が提案する武士道ストーリーが日本遺産に認定されれば、新渡戸稲造の先祖ゆかりの地・花巻と比べ、盛岡市に及ぶ効果は交流人口の点など

からしてかなりのものと考えられます。盛岡市が代表自治体となって進めている最北端の5城柵を巡るストーリー申請はもちろんメインで継続しつつ、その内容にはよりますが、当市においても十分な効果が考えられる他都市からの提案に関してはアプローチを受け入れ、ともに岩手県の日本遺産認定を増やすために協力しあうべきと考えます。

地域課題について(高松の池の護岸整備)

【質問要旨】

- ・ 市立図書館前の堤防の陥没箇所の原因は何か。
- ・ 高松の池の水圧や石垣の耐久性について把握しているのか。
- ・ これまで石垣の補修工事はいつ実施したのか。
- ・ 堤防の現状について当局はどのように見ているのか。他

【答弁内容】 - (都市整備部長)

市立図書館前の堤防の陥没箇所における原因については、現在調査中であり、その特定まで至っていないが、引き続き調査を実施していく。

堤防にかかる水圧や石垣の耐久性については、一般的な水深1m付近の水圧は承知しているが、水圧が高松の池の護岸に与える影響までは把握していない。ただ、堤防全体の耐久性については、平成11年度の調査によると、40年程度は崩壊の危険は少ないとされている。

護岸(石垣)の補修工事については、これまでに大規模な工事は行われていないと把握している。

堤防の現状については、現時点で崩壊の危険性は少ないとされているが、沈下や遊歩道の亀裂も見られていることから、調査を実施し、補修方法や実施時期について検討していく。

H11年に実施した調査で今後40年は大丈夫という結果が出たということですが、あれから20年近く経過し、その間東日本大震災もありました。大丈夫だから全く何もしないということではなくて、定期的な調査・補修は必要です。今回できた陥没が地盤沈下となんら関係のないものであるならいいのですが、その延長線上に堤防の遊歩道は常時車が通行する訳でもないのに池側に下がるように亀裂が入っています。この部分は、まだ土手だった時代に2回の決壊があった場所でもあります。石垣の老朽化も著しく、調査は早急に行ってもらいたいものです。



←高松の池に面して長く亀裂が入っている遊歩道